

先月29日午後6時20分ごろ、帰宅途中、西の空に何とも幻想的な細い月が見えていました。見た人はいるでしょうか。しばらく見えなかつた月がまた宵の空に戻って来たのですね。目で見れば言葉で何とか表現できます。映像はなかなか表現が難しいのですが、図1のようなイメージです。何とも魅力的な月です。

昔話には太陽に比べて月の方が多く登場します。毎日、形や見える時刻が変化する月の方が興味を引くからでしょう。人間にとって生と死は永遠の課題ですが、細い月がだんだん太って満月として輝き、またやせ細ってやがて消えてゆき、しばらく見えなくなり、また細い三日月として復活する様子は死んでも

満ち欠け、やはり幻想的

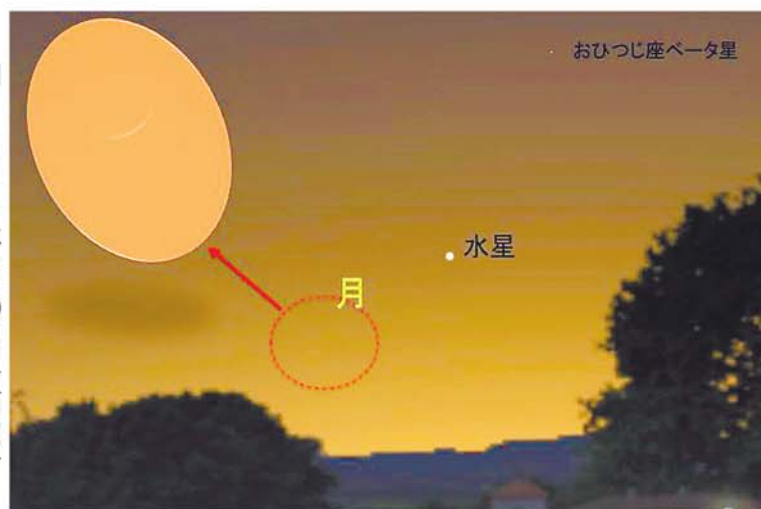


図1 2017年3月29日夕方の空



図2 4月5日から7日にかけての午後7時半ごろの南の空

また復活する輪廻(りんね)転生のシンボルでもありません。脱皮する蛇や冬眠からは

い出てくるカエルなども輪廻転生のシンボルなので、月にカエルが住んでいるなどというのとも関係してい

ます。月には不死の妙薬があるというの似た発想によるものです。月の見え方で暦を作る太

陰暦では、初めて見える細い月を「新月」と呼んで月の始めとする方法を取っている暦もあります。イスラム暦がそのタイプです。

調べてみると、先日、私が見た月は確かにイスラム暦第7月(Rajab)の1日の月でした。あの月を見てイスラムの天文学者は「新しい月の始まりだよ」と世界に知らせていたかと思うと、ちょっと感動的な風景でした。

これから月はどんどん満月に向かって大きくなっていきます。図2にきょう5日から3日間の月の位置と形を描いてみましたので実際に観察してみましよう。新年度とともに新学期が始まり、これから満月に向かって皆さんの生活が昇り調子でありますように。

やまがた天文台

山形市の山形大小白川キャンパス内。毎週土曜日、星空ガイドツアーを開催。時間は午後7時15分～、同7時45分～、同8時15分～。参加料は小学生以上200円。問い合わせは山形大インフォメーションセンター023(628)4050